



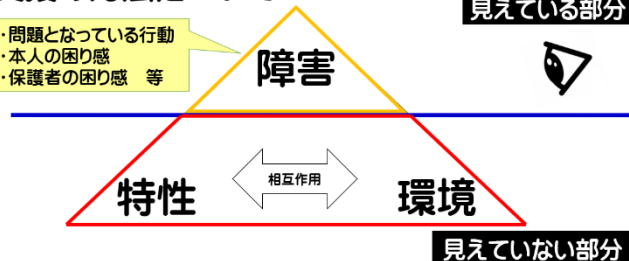
と ことん う きうき か のうせい つ ながり



『支援を必要とする子供の理解とポイントについて』

支援の方法について

- ・問題となっている行動
- ・本人の困り感
- ・保護者の困り感 等

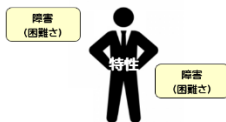


- 支援の方法について考える際に問題となっている行動や本人の困り感、保護者の困り感など目に見えている部分だけに着目するのではなく、目に見えない本人の特性や環境との相互作用といった要因について着目する必要があります。

本人の特性と相性の悪い環境

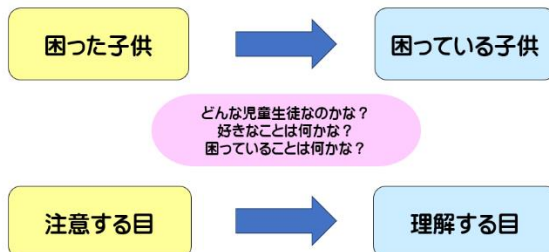


本人の特性と相性のよい環境



- 左側は、本人の特性と相性の悪い環境にいる際の様子、右側は、本人の特性と相性のよい環境にいる際の様子を表したものです。障害の困難さも環境を変えることで小さくすることができ、本人が安心して過ごすことができます。

◆支援を必要とする児童生徒の理解が第一歩



- 苦手なことばかりに注目すると・・・「苦手なこと（もの）を避ける」支援に偏ってしまいます。「〇〇ができない」→「〇〇はできる」と弱みを強みに変換する「よいところの基準」を見直すことも大切です。

保護者・関係機関と連携し、一緒に子供を支えていきましょう！！
特別支援アドバイザーや指導主事を御活用ください。

未来を創るU10

令和6年度 指導室訪問校

鎌ヶ谷市立第五中学校 田口 涼太郎 教諭（2年目）

田口教諭が勤務する鎌ヶ谷市立第五中学校は、今年度、千葉県教育庁東葛飾教育事務所の指導室訪問を実施した学校です。

指導室訪問では、3年生の理科「生物の種類と多様性の進化」の授業を展開しました。カモノハシの分類について思考する時間と自分の考えを表現する時間を確保することで、生徒が考えを比べて新たな考えに気付いたり、これまでの学習を整理し結び付けたりすることのできる深い学びのある学習となりました。

理科の教科担当として、研究テーマである「学習意欲を高め、自ら粘り強く学ぶ生徒の育成～個々に応じた課題解決と授業での振り返りを通して～」に向けて、各教科担当と連携しながら授業づくりに取り組んでいます。

